

【報道関係各位】

2018年1月16日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2018年 春の花粉飛散予測(第3報) 東北は前シーズンの2倍超え、関東甲信、四国は約1.5倍も飛散

◆2018年 春の花粉飛散予測のポイント (2018年1月16日 発表)

- ・東北の飛散量は前シーズンの約2倍、関東甲信、四国では約1.5倍
- ・東京のスギ花粉のピーク期間は3月上旬から4月上旬までの約1カ月と長期間

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己、以下「日本気象協会」)は、2018年1月16日(火)に2018年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第3報)を発表します。また、詳細な情報を、「2018年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. 各地のピーク予測

スギ花粉のピークは、福岡では2月下旬から3月上旬、高松・広島・大阪・名古屋では3月上旬から中旬でしょう。金沢と仙台では3月中旬から下旬にピークを迎える見込みです。東京のピークは3月上旬から4月上旬となり、多く飛ぶ期間が長いでしょう。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉のピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、広島では4月上旬、高松・大阪・名古屋・東京では4月上旬から中旬の見込みです。金沢と仙台は4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

スギ・ヒノキ花粉の飛散量がピークになる時期は、花粉シーズン中の気温や予想される総飛散量と関係があると考えられます。2月、3月の気温は北日本では平年並みか高く、東日本、西日本ではほぼ平年並みの予想です。ピーク時期を早めるほどではないため、スギ・ヒノキ花粉それぞれのピーク時期は例年並みの見込みです。

2018年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2018年1月16日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									

 日本気象協会

2018年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

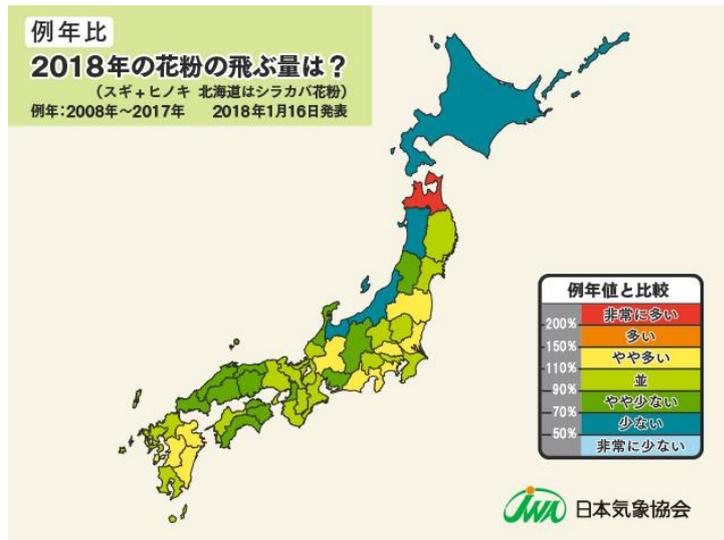
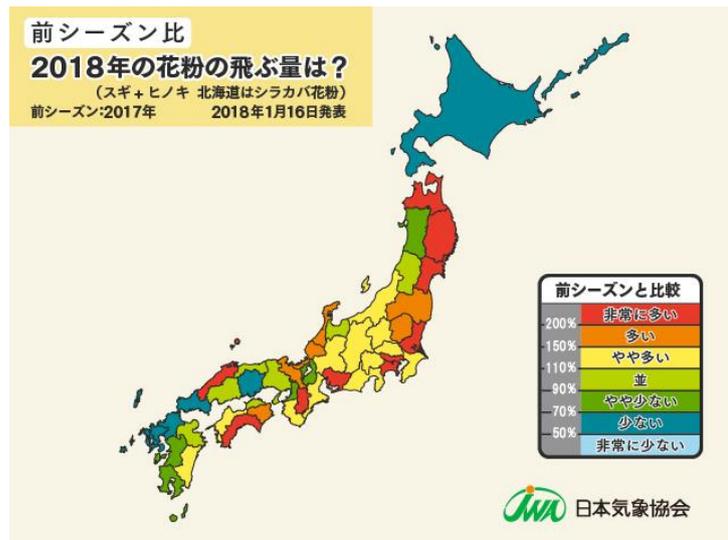
2018年1月16日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし

 日本気象協会

2. 2018年シーズンの花粉飛散傾向

2018年春の花粉飛散予測は、東北から近畿、四国地方までの広い範囲で、前シーズンの飛散量を上回る見込みです。東北から中国、四国地方にかけて、前シーズン比で「非常に多い」飛散量の都道府県があり、注意が必要です。一方、例年比で見ると、東北と東海地方ではやや多く、特に青森県では現地調査の結果から、青森市内で雄花の着花量が多いこともあり、「非常に多い」予想としています。関東甲信、近畿、九州地方では例年並みとなるでしょう。北海道、北陸、中国、四国地方では例年を下回る見込みです。



地方	飛散量 (地方平均値%)		2017年夏(6~8月)の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない (60%)	少ない (50%)	平年並	多い	平年並
東北	やや多い (110%)	非常に多い (210%)	平年並	多い	平年並
関東甲信	例年並 (100%)	多い (150%)	高い	少ない	平年並
北陸	やや少ない (70%)	やや多い (130%)	平年並	かなり多い	多い
東海	やや多い (110%)	やや多い (120%)	高い	少ない	多い
近畿	例年並 (90%)	やや多い (110%)	高い	平年並	多い
中国	やや少ない (80%)	前シーズン並 (90%)	高い	平年並	多い
四国	やや少ない (80%)	多い (150%)	高い	平年並	多い
九州	例年並 (100%)	やや少ない (70%)	高い	少ない	多い

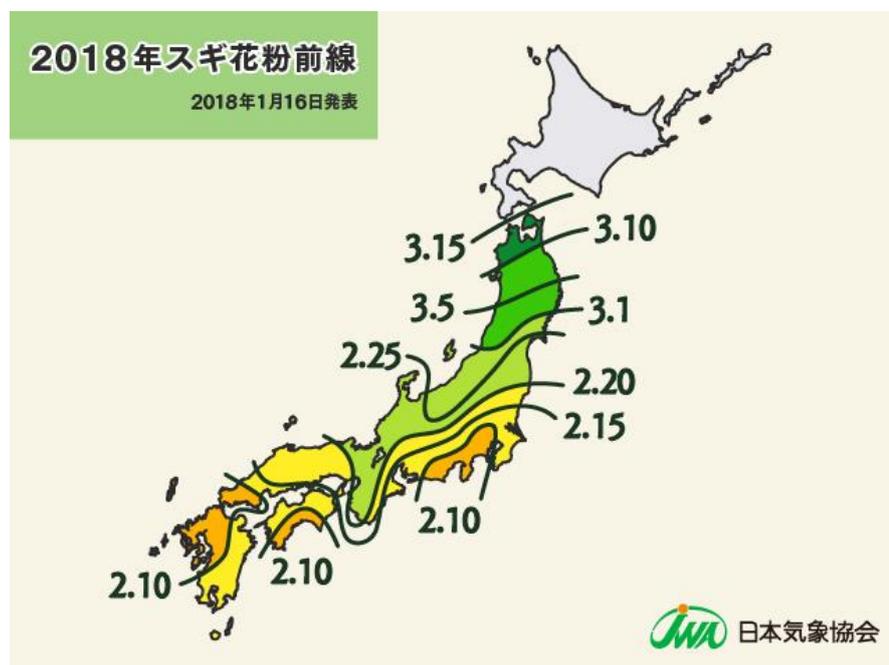
3. 2018年シーズンの飛散開始時期

2018年春のスギ花粉の飛散開始は、例年並みとなるでしょう。2月上旬に九州や中国、四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンが始まる見込みです。

この先1月下旬から2月は、北日本では平年並みか平年より高く、東日本と西日本は平年並みの気温となるでしょう。この時期の気温が平年より高いとスギ花粉の飛散開始は早まる傾向となりますが2018年春のスギ花粉の飛散開始は全国的に大きく早まることはなく、おおむね例年並みとなる見込みです。

ただし、スギ花粉は飛散開始日*と認められる前から、わずかな量が飛び始めます。2月上旬に飛散開始が予測される地域では、1月のうちから花粉対策を始めるとよいでしょう。

*飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



4. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6月～8月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」の協力のもとで、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。



同一地点のスギやヒノキを毎年観察（例：高知県長岡郡本山町のスギの様子）



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン（例年）の 200%以上
多い	: 前シーズン（例年）の 150%以上 200%未満
やや多い	: 前シーズン（例年）の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン（例年）の 90%以上 110%未満
やや少ない	: 前シーズン（例年）の 70%以上 90%未満
少ない	: 前シーズン（例年）の 50%以上 70%未満
非常に少ない	: 前シーズン（例年）の 50%未満

前シーズン	: 2017年シーズン飛散量
例年	: 過去10年(2008～2017年)の平均値

【2017年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981～2010年の平均値
----	------------------